

西島製、ポンプ開拓加速

西島製作所は石油・天然ガス市場向けのポンプや蒸気タービンの事業に参入した。

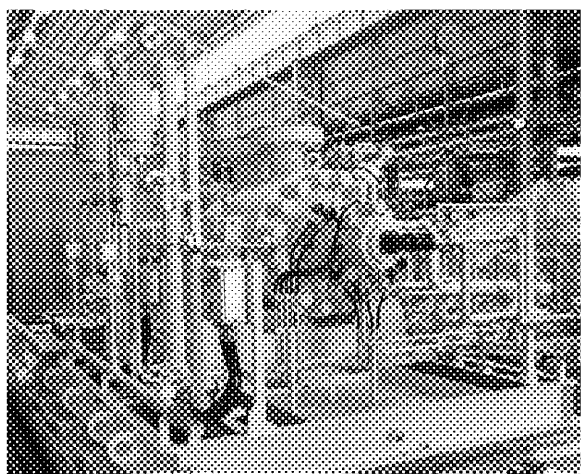
7月上旬に住友重機械工業からポンプやタービンを手がける新日本造機（東京都品川区）の全株式を取得し、完全子会社化した。発電市場向けなど既存事業の強化も期待する。西島製は世界首位の海水淡水化プラント向けポンプなどで注目されるが、不安定な受注環境が課題。事業ポートフォリオを分散させ、成長戦略を描きやすくする考えだ。

（大阪・團尾雅之）

新日本造機を買収

西島製は新日本造機 3月期までの中期経営の子会社化を受け、2 計画の売上高1000億027年3月期の売上 億円目標が前倒しで達高予想を期初公表比84 成する見込みとなった億円増の1039億円 ことを踏まえ、中計もに上方修正した。30年 見直す予定。28年3月

期以降、新規参入した けのポンプと機械駆動石油・天然ガス市場向 用蒸気タービンなどで、売上高100億



新日本造機の石油・天然ガス市場向けポンプ



規模を見込む。

新日本造機は、石油化学プラントなどで使われる米国石油協会（API）規格準拠の「APIポンプ」の製造で知られるが、営業力の弱さが課題だった。今後は「西島製の営業力を使って新日本造機の余力を伸ばす」（西島製の担当者）考えだ。

西島製は世界初となる商用規模の液化水素

ポンプを実証中。早期に技術確立した上で、本格展開を狙っている。APIポンプは液化ガスの移送などに使われており、こうした脱炭素分野でもシナジ

新日本造機は中小規模の発電用蒸気タービンも製造している。その受注構成比率は、25年3月期は海水淡水化プラント向け38%、発電向け27%だったが、26年3月期は海水淡水化プラント向け19%、発電向け47%だった。海水淡水化市場が一時的に減速した一方で、米

西島製は受注状況が数年単位で大きく変動する。海外での分野別受注構成比率は、25年3月期は海水淡水化プラント向け38%、発電向け27%だったが、26年3月期は海水淡水化プラント向け19%、発電向け47%だった。海水淡水化市場が一時的に減速した一方で、米

石油・ガス向け100億円狙う

西島製は世界初となる商用規模の液化水素ピス収益が確実に得られる法定点検によるサー回避した格好だ。こうした事業ポートフォリオを、今後いかにして最適化していけるかが注目される。